令和６年９月 11 日

お 知 ら せ

課 所 名	農産課	農林水産 総合センター 農業研究所 （岡山県病害虫防除所）
担 当 者	安河内・三浦	長森・畔柳
内　　線	3818・3820	－
直　　通	086-226-7422	086-955-0543

病害虫発生予察注意報を発表しました
（ハスモンヨトウ）

県では、大豆、野菜類、花き類の主要害虫である「ハスモンヨトウ」が、今後、多発生することが予想され、被害を未然に防止するため、「病害虫発生予察注意報」を発表しましたので、お知らせします。

農業普及指導センター、農業協同組合等を通じて、生産農家に防除対策の徹底を呼びかけてまいります。

（参考）

１　病害虫発生予察注意報

植物防疫法に基づき、病害虫防除所が病害虫発生予察事業として、県内の主要病害虫の発生状況等から、病害虫の多発が予想され、かつ、早めに防除措置を講ずる必要が認められた場合に発表する。

２　過去の発表状況

「ハスモンヨトウ」の注意報（近年）は、平成 14 年、平成 15 年、平成 17 年、平成 28 年に発表している。

３　注意報の根拠

・９月２日から５日までの巡回調査における若齢幼虫による大豆の被害葉の発生ほ場率が、平年より高い。

・赤磐市のフェロモントラップにおけるハスモンヨトウの８月１日から 31 日までの誘殺数が平年と比べて多い。

・広島地方気象台の８月 20 日発表の季節予報によると、向こう３か月は本虫の発生に適した気象条件が続くと考えられる。

○「ハスモンヨトウ」の被害

ハスモンヨトウの幼虫は大豆やキャベツ、ハクサイ、サトイモ、キク等の野菜・花きなど多くの種類の作物を食害し、夏の終わり頃から急増して大きな被害を及ぼす。

大豆では、葉裏に産卵された卵塊（200～600 粒の卵を含む）からふ化した幼虫は、最初のうち、葉裏に群生して葉の表皮を残して食害する。このため、大豆畑では上の方の葉が白変した「白化葉」が見られるようになる。体長約１㎝に成長した幼虫は、しだいにほ場に分散して食害を始めるようになる。さらに発育が進むと、食害量が増大し、葉だけでなく莢も食害されるので被害が大きくなる。また、日中は葉裏や物陰に潜み、主に夜に活動するようになる。

ハスモンヨトウの幼虫に食害された大豆の葉（白化葉）と卵塊

大豆の葉裏に群生したハスモンヨトウの幼虫